

## ハイパー・メディアをもちいた衣服標本属性の解説

猿田 佳那子

同志社女子大学

公共博物館の標本は、展観されたり研究対象になったりすべきものである。しかし利用者が、すべての標本を手にとってみることは困難である。みたい標本をさがしだすためには、各標本につけられた属性情報についての概念規定をしめすものが求められる。本報は、国立民族学博物館衣服標本属性分析表の概念規定をしめすファイルの作成を報告するものである。HTMLによって、各属性を関連づけるリンクを設定し、標本静止画像・技法をしめす動画・現地撮影着装画像を参照することができる。今後は、分析初心者を被験者としたファイルの検証を予定しており、HTMLの操作性のよさをいかして隨時更新していきたい。

## The Hypermedia Guide for the Attributes of Clothing Specimens

Kanako SARUTA

Doshisha Women's College

Specimens of a public museum are not only to be looked up but studied. However, it is impossible for users to touch every specimen by hand. So it is necessary to make conceptual rules of information of retrieval code for a specimen. The file in this work explains conceptual rules which are for a table of attributes for specimens at the National Museum of Ethnology. By using HTML, it is easy to link on each related attributes. So it is possible to refer to pictures of a specimen and animation of techniques and pictures by the field survey. While verifying the file by an untrained analyst as a testee, I will renew the file.

### 1 目的

ある衣服がどのようなものであるかということは、その衣服の寸法、重量、色、形態、素材、染織法、構成法、着用者、着用目的、着用方法などでしめされる。はじめの7つはモノ自体としての衣服がもつ属性(=固有属性)であり、との3つは着用する人間とのくみあわせできる非固有属性である。

非固有属性は、着用者との関連により随时変化する。たとえばTシャツが室内着にもなり下着にもなることはめずらしくない。晴れ着がいため普段着に繰り回すこともある。近年の男女服の使用区分はあいまいになってきている。

これにたいして固有属性は、色あせのような経時的な変化はあるものの、織物が編物に変化したり、木綿が羊毛に変わったりはしない。しかし固有属性についても、日常生活のなかでの認識は、かららずしも厳密なものではない。そのあいまいさには、1. ある衣服を青とみるか緑とみるかといった、属性その

もののあいまいさ、2. 織織も絣プリントもどちらも「絣」とよぶような、概念規定のあいまいさ、3. 染織法や構成法についての知識不足から、属性そのものを識別できないためのあいまいさ、からなっている。

博物館に収蔵される衣服には、日常生活で個人がもちいるのとちがい、展観されたり研究対象になつたりすることが期待される。標本点数がおおくなれば、利用者が直接目でみたり手にふれたりして、必要な標本をさがしだすことは難しくなる。利用目的に適合した標本を検出するためには、各衣服の諸属性を明瞭に識別して記述すると同時に、その識別基準を利用者にたいして明示しなければならない。

本報は、標本属性分析作業に従事するひとにたいして衣服固有属性の学習をたすけることにより均質な分析を継続すること、ならびにデータ公開によって標本利用をすすめることを目的として、現在作成中の、衣服固有属性識別支援ツールについて報告するものである。

## 2 方法

### 2.1 対象衣類とMCD標本分析コード表

MCD（民博コスチュームデータベース）プロジェクト<sup>1</sup>では、国立民族学博物館（以下、民博と略称する）衣類収蔵庫の衣服を、衣服標本属性コード表にしたがってコードづけしてきた。私は、1987年以降このコードづけ作業にたずさわるなかで、このコード表をもちいれば、衣類のほとんどの<sup>2</sup>固有属性を表現できることを確認している。しかし、おののの衣服にたいして全部で6マーク項目99属性<sup>3</sup>の有無を判別することは容易でない。1991年版カタログ（大丸:1991）を追認調査してみると、色マーク、布地特性マーク、構造技術マークについてチェックマークの判断に個人差が大きいことがわかつた<sup>4</sup>。丈マークと形態マークについては、チェックマークが変わっても、おおむね一義的に判断できている。これまで発生した問題点を勘案して、このたび「国立民族学博物館衣服標本カタログ1996<sup>5</sup>」掲載分から、分析コード表を改訂し簡略化した。本報は、1996年改訂版のコード表について、事例をもりこみつつ解説するものである。

### 2.2 画像の作成

#### 2.2.1 標本写真

これまで写真撮影は、属性コードをつけながらおこなわれてきた。同型・同大の標本がつづくばあいなどをのぞき、大半の標本を撮影している。各衣服に特徴的な属性は、コードをつけていくなかで、みつかることがおおく、機械的に同じ方向・方法で撮影するだけでは不十分である。したがって今後も、撮影の素人による撮影がつづくものと考えている。したがって、撮影の専門家が諸条件をととのえて写すような精度は期待できない。

このファイルを作成するについて、衣服の全体と、そのなかで特にコードの属性を解説したい部分とが対応するように撮影しなおした。まず、動画で全体から部分へとズーム・アップするように撮影してみたが、コンピュタにとりこむと容量をとり表示が遅いわりには不鮮明であったので、静止画の組み合わせをもちいることにした。

<sup>1</sup> MCDプロジェクトならびに属性コード表の経緯と概要は、大丸:1983、大丸:1984、大丸:1991、八村ほか:1993を参照されたい。

<sup>2</sup> 染色法、模様についてはコード化されておらず、自然語で記述してきた。

<sup>3</sup> 色マーク(10)、丈マーク(5)、形態マーク(10)、布地特性マーク(25)、素材マーク(12)、構造技術マーク(26)、部位マーク(11)。

<sup>4</sup> これまでの分析作業における問題点については、国立民族学博物館研究報告別冊として印刷中の1996年版カタログ（編者：大丸弘、久保正敏、松下知子、猿田佳那子、高橋晴子、田中昌美）ならびに猿田:1995を参照されたい。

<sup>5</sup> 『国立民族学博物館研究報告別冊』として印刷中。

## 2.2.2 動画

ハイパームディアを用いて、属性学習を支援するためのファイルを作成しようと決めてから、若干の標本について動画を撮影した。これは、標本を紹介することが目的ではなく、静止画では説明しにくいところを補うことが目的である。前項で述べたように、現行の環境では、動画よりも静止画の組み合わせのほうが鮮明な画像が得られ、詳細を提示するにはよいのであるが、布地特性にかんする技術解説については、短時間でも動画を挿入するとわかりやすいものになる。

## 2.2.3 現地撮影写真

衣服の形態をしめすとき、着用状態も同時に表示したいことがある。博物館スタジオでの撮影は簡単ではあるが、その衣服のもつ本来の生活背景がなく、また全身の着用品がそろっているとも限らず、提示情報としては不十分かつ不自然である。このファイルは、完成すれば博物館や教育現場で利用されることを想定しているが、現地撮影写真の多くは著作権の問題がからんで、なかなかとりこみにくく。また、現在では世界各地の服装は西欧式にとってかわられつつあり、いわゆる民族衣装は古い写真にその特徴をとどめる傾向にある。そこで、現地撮影の写真はおもに版権ぎれの民族誌類から採用することにした。これらは、画質の劣化がみられるものもあるが、コンピュータにとりこんで補正した。

## 2.3 作成環境

### 2.3.1 使用したハード・ウェア

このファイルは、1995年につくりはじめた。コンピュータの機種選定にあたって、画像処理を支援する市販ソフト・ウェアが充実しており、GUIにすぐれていることから、1996年にApple Computer社のPower Macintosh(8500/132)を採用した。

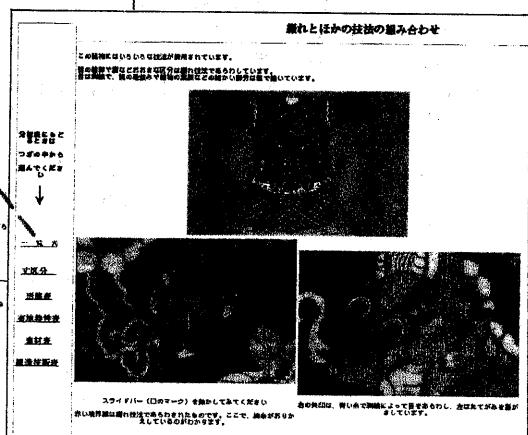
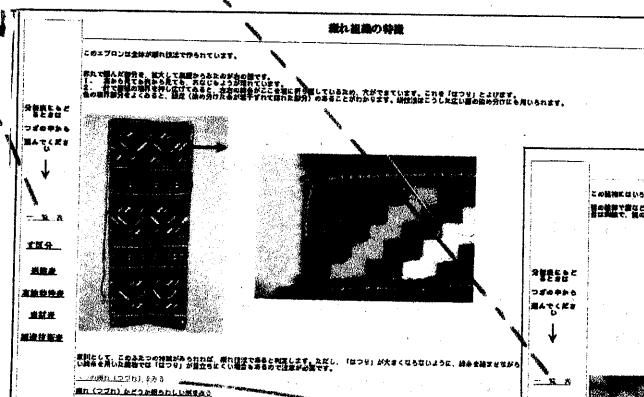
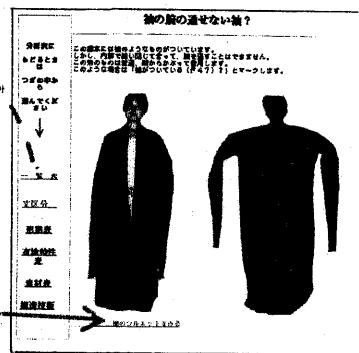
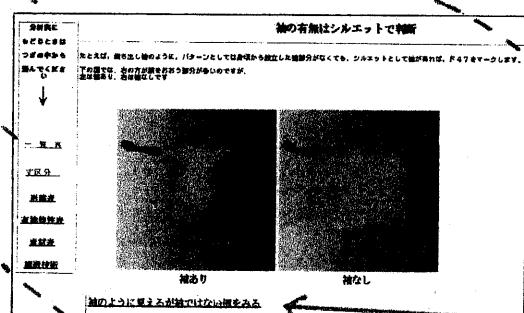
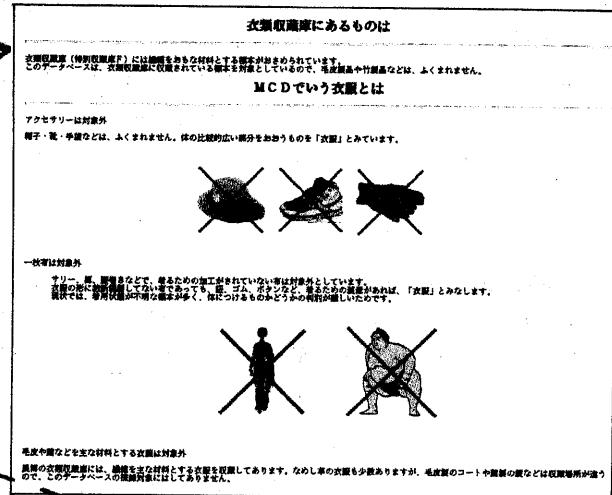
### 2.3.2 使用したソフト・ウェア

**写真の加工** 標本画像や現地撮影の着用写真は、アナログ撮影してフォトCDに焼き、380×256ピクセルの画像をもとに必要な加工をほどこした。写真の加工にはAdobe社PhotoShop4.0jをもちいた。われわれ素人がとった写真や、画質の劣化した古い写真をとりこむとき、写真の修整機能はたいへん役だった。このファイルは、標本そのものや民族誌の記述を、忠実につたえることが目的ではないので、これらの画像の色、模様、露出、大きさなどに修正を加えて属性の概念規定を明瞭にしめすようにした。また、矢印や丸囲み、点滅をいれて指示部分の明確化につとめた。

**仮想人台の作成** 着用状態をしめすために、STRATA社VISION3dを用いて人台を作成した。この人台は人体の骨格構造にあわせたボタンをもつて、着用状態をわかりやすくするポーズをとらせることができる。着用状態をしめすためには、人間が着用して撮影する方法もあり、実際、こうした写真も採用している。しかし、複数の衣服をくみあわせて着装が完成するようなばあいには、ブラウスのみ、パンツのみのように単品で人間が着用すると違和感があり、かといって、くみあわせて着用すると個々の衣服の属性の一部がかくれてしまう。仮想の人台には、たとえばパンツの片足分づつはかせることもできるなど、衣類属性の概念図作成にふさわしい特性がある。

**HTMLの記述と確認** HTMLの記述は、Visual Page1.01で大まかな構成をおこない若干の手直しをした。Visual Pageには、完成画像とソース・ファイルとを同時に表示し、一方をかきかえると他方が連動してかわる特性がある。また、動画もドラッグ&ドロップでとりこめる。標本数は増え続け、解説す





べき事例は増えたり変わったするであろうから、コンピュータに画像をとりこむことにより、写真の加工やさしかえが容易にできることは、この種の解説には不可欠な条件といえる。既成のHTML支援ツールで作成したこのシステムは、そのアルゴリズムがごく一般的なものにしあがっている。これは、作成が容易であるのみならず、ひろい範囲のユーザーにうけいれられる前提にもなる。動作確認はNetscape Communicatorでおこなっている。若干の表示誤差はあるものの、機種に依存せず閲覧できる。

### 3 結果

ファイルは、分析事項一覧表、長さの区分解説ページ、形態マーク一覧表、布地特性一覧表、素材マーク一覧表、構造技術マーク一覧表、ならびに各解説ページからなっている。これらには、必要におうじて相互に参照ボタンを設けている。前ページに、分析事項一覧表と各解説ページの関連の一部を例示した。

### 4 今後の計画

今後は、幅広い利用者を想定して「ふりかな」や、専門用語解説の辞典項目などへの参照を用意したい。また1998年度は、分析初心者を被検者としたファイルの検証を予定している。素材の識別は、顕微鏡観察、許される範囲の燃焼試験や薬剤による融解などによりすすめられているが、これらについての解説はこれから課題である。HTMLの操作性のよさをいかして随時更新しながら、服装関連教育一般に応用していきたいと思っている。

### 謝辞

大丸 弘氏ほかMCDプロジェクトの皆様、ならびに、山本泰則氏（国立民族学博物館）、西口理恵子氏（広島女学院大学）には、いろいろと御助言をいただきました。厚くお礼申し上げます。また実際の作業については、グラフィックデザイナー硯正人氏の御助力をえてすすめることができました。感謝申し上げます。

本報は、平成8年度科学研究費補助金（重点領域研究）「人文科学とコンピュータ」（課題番号08207232）課題：「民博衣類標本データベース支援ツールの開発」ならびに、平成9年度同補助金同領域（課題番号09204108）課題：「身装関連データベースの構築とその展開」の補助をえておこなった研究の成果の一部です。

### 参考文献

大丸 弘

- 1983 MCDシソーラスをめぐって(2)－民博衣服標本データの入力』『民博通信』20:65-74  
1984 衣服標本属性論－MCD標本シソーラス－1. 固有属性』『国立民族学博物館研究報告』9-3:533-570  
1991 「固有属性分析による衣服標本カタログ』『国立民族学博物館研究報告別冊』13

八村広三郎、高橋晴子、久保正敏、杉田繁治、大丸弘

- 1993 「民博コスチュームデータベース」『人文科学とコンピュータ』20-5:37-44

猿田佳那子

- 1995 「機械検索のための標本衣服名の統制」(2)衣服名の示す概念とMCD衣服標本属性分析表  
との対応関係『広島女学院大学生活科学部紀要』2:13-28

猿田佳那子、西口理恵子

- 1997 「民博衣類標本データベース支援ツールの開発」文部省科学研究費補助金重点領域研究  
「人文科学とコンピュータ」1995-96年度研究成果報告書CD-ROM版:課題番号08207232